

日時：令和6年7月29日（月） 13時30分～15時30分

場所：北信合同庁舎 4階 講堂

[出席委員]

岡村 寛 委員 (長野県農業経営者協会 飯水支部長) (以下、岡村委員)
浅沼 幸治 委員 (長野県農業士協会 下高井支部長) (以下、浅沼委員)
西野 三恵子 委員 (長野県農村生活マイスター協会 下高井支部長) (以下、西野委員)
西山 真弓 委員 (信州湯田中渋温泉郷 女将の会 ゆのか 会長) (以下、西山委員)
佐々木 真 委員 (中野市農業協同組合 常務理事) (以下、佐々木委員)
油科 恵子 委員 (長野県農業委員会女性協議会 北信支部長) (以下、油科委員)
塩崎 仁志 委員 (株式会社 R&Cながの青果 中野支社長) (以下、塩崎委員)
有賀 裕介 委員 (中野市 経済部 農業振興課長) [欠席]
代理 農業振興課 課長補佐兼振興係長 牧野 明子 氏 (以下、牧野代理)
春日 直樹 委員 (飯山市 経済部 農林課長) (以下、春日委員)

1 開会

【北信農業農村支援センター技術経営普及課 徳永課長 (以下、徳永課長)】

それでは、定刻には少し早いですが、本日出席される方は皆さんお揃いですので、ただ今から長野県食と農業農村振興審議会北信地区部会を開催させていただきます。

進行を務めさせていただきます北信農業農村支援センター技術普及課の徳永です。

よろしく願いいたします。

本日の地区部会については、県では会議のペーパーレス化を推進していることから、地域振興局の職員はパソコンを持ち込んでおりますが、ご了承をお願いします。

それでは開会にあたり、北信地域振興局小池局長からご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

【北信地域振興局 小池局長 (以下、小池局長)】

はい、皆さんこんにちは、北信地域振興局の局長の小池広益です。

今日は、食と農業農村振興審議会北信地区部会を開催しましたところ、ご参加いただきましてありがとうございます。

また、今回委員の切り替えということで委員就任にご快諾いただきましてどうもありがとうございます。

皆様方には、日頃から農業生産をもちろんこの地域の農業の振興そして地域そのものの活性化に御尽力いただいていることに改めて敬意を表します。

さて、今日この会議ですけれども、会議事項の中に1、2、3がありますけれども、一つ目二つ目というのがこの会議の本来の会議主旨であります。

これは、県の条例に基づいて食料生産そして稼げる農業にする、農村の振興について、県全体でも計画を作って実行しているところですし、地域振興局ごとでも計画を作って取り組み状況について地域の皆さんの声をお聞きしながら進めていくという趣旨であります。

県全体でもやっておりますし、地域振興局ごとにもやっているということでもあります。

農業生産に関わる方、流通に関わる方、消費者として使う方、そして行政に携わっている市の方においていただいておりますので、それぞれの立場から様々な視点で北信地域の農業をどうするのかということで、ご意見を賜ればありがたいと思っております。

そして3番目に、今回多分例年にない項目として少子化人口減少対策がございます。

これは、長野県全体で、全体でというのは、県行政だけでなく、各市町村ですとか産業団体の皆さんとも、200万県民、最大で220万人でありましたけれど、それが今、人口減少が進んで199万人と、これから人口はもう増える見込みはありませんので、減り続けている人口に対して、長野県なりこの北信地域をどうやっていったらいいかということ、今考えているところでございます。

当局でも、今日お見えの西山さんの女将の会の皆さんと、この間、私どもで意見交換をしていただきましたし、商工会議所の青年部の方ですとか、市町村地職員と県の現地機関の職員の20代30代の職員との意見交換をして、いろんな意見を集めているところで。

その中で、異口同音におっしゃることは、この地域は農業と観光が主要産業であると。

農業というのは、日本は人口減少だけど世界的には人口が増えている。そしてウクライナのような政情不安があると輸入が途絶える。そうすると食料生産というのは、自給率高めてやっていく必要がある。

この地域は特に若い農業者の方で就農されている方も多いので、農業に伸び代が大きくある地域じゃないかというようなご意見を、これ商工の方もおっしゃってましたし、女将の会の皆さんからもご意見いただいています。

そういう意味で、農業ってこの地域では欠かすことはできませんし、大いに伸び代がある産業だなと思っています。

そういった意味で、ちょっといつもと毛色が違う(3)が入っていますけれども、トータルすれば、この地域の農業をどうやって盛り上げていくかという会議でありますので、様々なご意見をお願いします。

会場は、堅苦しいしつらえになっていきますけども、あまり気後れせずに思いついたことを何でも結構ですので、ご意見を賜ればありがたいと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

【徳永課長】

はい、ありがとうございました。

それでは次に、次第の3にあります、地区部会委員の委嘱について申し上げます。

お手元の次第のついた資料をご覧ください。

1ページをおめくりいただきますと、下の中央にページがありますので、2ページ目の地区部会の設置規定をご覧ください。

第1の設置の目的のとおり、県では県民条例に基づく長野県食と農業農村振興計画の策定や、県が行う食と農業農村に関する政策に対して、地域の意見反映と地域の発展方向の取組の検証を行うため、長野県食と農業農村振興審議会の地区部会を設置しております。

この設置規程第3の規定に基づき、ご覧の資料1ページ目をお願いいたします。

こちらの委員名簿のとおり10名の委員の皆様を、令和6年4月1日から令和8年6月30日までの2年間、委嘱いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

なお、名簿と出席者の名札につきましては、それぞれご確認をいただき、自己紹介につきましては、それぞれの発言の時にお願いをしたいと思います。

また、委嘱状につきましては、本来であればお一人ずつに手渡して交付するところですが、時間の都合上お手元に申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の委員出席については8名の方が出席しており過半数を超えておりますので、

設置規程第4の(5)に基づき、地区部会を開催することをご報告申し上げます。

地区部会は、地区部会設置規程の第4の(7)のとおり公開となっております。

また、議事録作成のため、本日の会議は録音させていただきますので、ご了承願いたいと思います。

本日の意見交換の内容は、地域振興局のホームページで公表させていただきますとともに、ご意見ご提言につきましては、取りまとめて県の食と農業農村振興審議会へ提出いたしますので、併せてご承知をお願いしたいかと思っております。

ここで配付資料の確認をいたします。

次第のついた資料の他に、別綴じで右肩に資料4と書かれている、人口減少対策についてと(参考)北信地域振興局管内概況書抜粋と書かれている資料、それと第4期長野県食と農業農村振興計画の本冊と概要版をお配りしてございます。資料につきましてはよろしいでしょうか。

本日の日程ですが、会議は3時30分までを予定しております。

続きまして、部会長の選出をお願いいたします。

地区部会の設定規程の第4の(1)により部会長は委員の互選により選出するとされておりますが、いかがいたしましょうか。

【岡村委員】

J A中野市の佐々木委員さんをお願いできればと思います。

【徳永課長】

はい。佐々木委員さんをお願いをしたいという発言が出ましたけれども、皆さんいかがでしょうか。

同意いただける方は、手を挙げていただけるでしょうか。

(佐々木委員を除く出席委員 挙手)

はい、皆様のご賛同を得ましたので、佐々木委員に部会長をお願いしたいと存じます。

なお、地区部会の設置規程第4の(3)により、会議の議長は部会長が務めることとなっておりますので、佐々木部会長は、議会議長席へご移動をお願いいたします。

また、佐々木部会長には、議会事項の進行をよろしくをお願いいたします。

(佐々木委員 移動)

【佐々木委員(以下、佐々木部会長)】

大変お疲れ様でございます。J A中野市で経済担当常務を務めさせていただいております、佐々木と申します。前期も議長をやらせていただきました。そのまま引き続きということで、よろしく申し上げます。

2年間ということでございますけれども、皆さんにはですね、有意義な協議ができますようにご協力をお願いいたします。

本年度は、第4期5か年計画の2年目の年ということになります。

また、今回の地区部会の会議の中では、昨年までの取り組み状況や今年度の実行計画についてと、そこに加えて先ほどお話がありましたけれども、人口減少という対策について、大変大きな課題でございますけれども、これにつきまして意見交換をさせていただくということになっております。

農業分野につきましては、皆さんもご存知のとおり農業従事者の高齢化、後継者不足ということで、他の分野に比べますと大変顕著でございます。

特にですね、この5年から10年までの間に、農業の従事者が大きく減少するという予測をされているところがございます。

地域農業・農村の維持・発展に向けて、それぞれの立場から忌憚のないご意見をお願いしたいと思っております。

それでは、早速議事を進めてまいりたいと思っております。限られた時間でございますので、円滑な議事進行にご協力をお願い申し上げます。着座にて進行させていただきます。

それでは、会議事項の（１）令和5年度北信地域の取組実績についてと、関連がございますので、（２）の令和6年度実行計画について、それぞれ事務局から説明をお願いいたします。

【北信農業農村支援センター農業農村振興課農業振興係 池田係長（以下、池田係長）】

はい。皆さん大変お疲れ様です。本日はありがとうございます。

北信農業農村支援センター農業農村振興課農業振興係の池田と申します。

座って失礼させていただきます。

次第の資料8ページをご覧くださいと思います。

まず地域の振興計画、地域の発展方向ということでお願いいたします。

先ほど、局長、それから議長さんの挨拶にもありましたが、第4期計画は令和5年から9年の5か年計画となっております。

県全体の計画の他に8ページのように、地域の発展方向として地域振興局ごと10地域ごとに特徴や課題を踏まえて策定をしております。

8ページにあるとおり北信地域では、未来につなげ 人と地域が織りなす 北信州の食と農をキャッチフレーズに、8ページの下段に記載してあります10年後のめざす姿の実現に向けて、9ページ以降にあるとおり、政策の展開方向としまして、重点取り組みを六つほど掲げまして取り組んできているところです。

この重点取り組みにつきましては、進捗状況を計るために達成指標をそれぞれ設けており、具体的な政策展開では、主に取組む内容を掲げてございます。

また、この政策展開につきましては、毎年度更に具体的に取組む内容について実行計画を作成して進めてきているところです。

では、資料の13ページをご覧くださいと思います。スクリーンにも資料を映しますのでご覧いただければと思います。令和5年度の取組実績になります。

達成指標の進捗状況であります。黄色に網掛けしたところが実績になります。

1番の中核的経営体数につきましては、計画よりも多い実績となっております。

その下2番の、化学合成農薬化学肥料を原則50パーセント以上削減した栽培、有機農業に取り組む面積がありますが、こういった栽培は手間がかかったり収量が少なくなったりというようなところで計画よりも実績は伸びていない状況です。

次の農業用ドローンによる防除面積につきましては、ドローンの導入支援も行っている中で計画よりもだいぶ面積が増えてきているところです。

それからその下、3番の果樹県オリジナル品種等の栽培面積につきましても、計画よりも若干少ない実績です。千曲川の遊水地工事の関係で、県オリジナル品種を含む果樹面積が減少していることと、りんごの早生品種が温暖化の影響で栽培面積が伸びないという状況もございましてこのような結果となっております。

その下の、野菜花き振興品目の栽培面積につきましては、国の統計情報を基に振興品目の面積を算出することとしておりますが、一部の野菜、アスパラガスですが、面積が公表がまだございませんので、今のところ数字が入っていないという状況です。

それからその下の、地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持、発揮するための活動面積につき

ましては、委員の皆さんには事前に資料をお送りしているところですが、変更なっています。

この面積は、多面的機能の活動面積と中山間地域の直接支払いの活動面積について、重複した部分を除いた合計としているところですが、お送りした資料には、多面的機能の活動面積のみの記載でありました。大変失礼いたしました。

あとはご覧の通りです。

続きまして取り組みの内容でございます。

重点取組1につきましては、経営体の育成ということで農業に前向きに取り組んでいる経営体への支援、それから新規就農者を含みます経験年数の浅い農業者に対する支援ということで、ご覧の内容に取り組んできているところです。

重点取組2につきましては、環境に優しい農業やデジタル技術の活用ということで、ちょっと環境に優しい農業とは違う内容ではありますが、GAPの取り組み、生産工程管理による消費者の信頼度を高めるという意味で推進をしているところです。

それから、記載はないですが、スマート農業、デジタル技術ということで、無人草刈り機の実演会や導入支援の取り組みも行っております。

重点取組3の農畜産物の生産強化でございます。

米、果樹、野菜、花と、それぞれ取り組んでございます。13ページの2番目の丸印の果樹オリジナル品種等の生産拡大と生産安定の推進では、一つ目の黒点、クイーンルージュの着色安定技術の検討それから収穫適期の把握を行って検討会を行ったということでございます。

この検討会の会場は、この講堂で行いまして、90人以上の出席者がございまして、会場に入りきれないというような状況でございました。関心の高さがうかがえた検討会となっております。

14ページをご覧いただきたいと思えます。

重点取組4です。農的繋がり人口の創出、農村づくりということでそれぞれの取り組みを行っております。

重点取組5です。農業農村の基盤づくりということで、かんがい施設や水利施設、ため池等の基盤強化、長寿命化等を図ってきているところです。

こういった施設については、効果が早いうちに出てくるように計画的に進めてきているところです。特に2番目の丸にある、頻発化激甚化する災害から暮らしを守る農業農村の強靱化ということで一つ目の黒点、湛水被害から農村を守る排水機場の整備と更新計画を策定2地区とございますが、これが完了したところです。

重点取組6については、地域食材のPR、食育・食文化の伝承という活動をしてきております。

次に15ページをご覧いただきたいと思えます。

令和6年度の実行計画になります。

委員の皆さんは、ペーパーを13ページと比較していただければと思えますが、達成指標の計画については、既に目標の9年度の目標を超えているもの、それから先ほどの野菜のように統計で数字が出てこないもの等もありますので、来年度は3年目の中間年になりますので、こういった目標を少し見直したいと考えておりますので、ご了承いただければと思えます。

次に、取り組む内容でございます。

重点取組1から6、それぞれ令和5年度から継続ということで取り組む予定であります。

重点取組1の上から3番目の丸の黒点。果樹生産における農作業労働力確保の体制構築に向けた農作業入門講座の開催および1日農業バイトアプリの利用を推進ということで、関係機関とともに推進していくこととしております。

現在、需要よりも供給が上回っておりまして、活用する農業者がまだまだ少ないという状況です。取り組み件数は多くなってきていますが、それに伴ってトラブルも発生してきていますので

講座を開設しながら取り組みを進めていく予定です。

重点取組2、3については継続です。

16ページをご覧いただきたいと思います。

重点取組4です。一番下の丸になります。雪室等地域資源を活用した農産物の高付加価値の取り組みを支援ということで、お米を雪室で保存しまして、通常保存したお米と食味がどれだけ違うかという試験を行っております。6月、7月、8月の3回に分けて、雪室からお米を出して、食味の調査を行っているところです。

重点取組5です。2番目の丸の一つ目の黒ポツの排水機場の整備については、昨年度計画の策定が終わりましたので、今年度から2地区整備を開始しているところです。

重点取組6についても継続です。

簡単ですが以上です。

【佐々木部会長】

はいありがとうございました。

ただいま説明もありました内容につきまして、ご質問やご意見、ご提言等ございましたら願いたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、よろしいようですが、何かありましたら、最後のところでもお聞きしたいと思います。

では、次の会議事項（3）の少子化人口減少対策について、事務局から説明をお願いいたします。

【北信農業農村支援センター 高橋所長（以下、高橋所長）】

農業農村支援センター所長の高橋と申します。よろしく願います。

それでは、すいません着座にて説明させていただきます。

皆様には、農業農村の会議という中で、なじみの薄い話になってしまっていて大変恐縮ですが、先ほど冒頭小池局長からの挨拶のとおり、県の全体的な課題ということで捉えておりますので、よろしく願いたいと思います。

それでは、スクリーンも見ていただきながら願いたいと思います。

人口減少対策ということで願います。

特に今日は、農業・農村・食に関して、人口減少対策についてどう考えていくかということで願いたいと思います。

まず一点目、日本全国状況です。急激な人口減少は、全国的な問題なんですよということが書いてあります。

これ（折れ線グラフ）が、我が国の人口を推移ということになっております。

明治以降、所得の向上、公衆衛生水準の向上ですとか、そういったことで急激に増加してきたという経緯があります。

今は、このピークから下り坂のところに来ています。

今後、2070年にはですね、人口が8700万人と予測されておまして、これが2020年対比で約69%、この時点で3割日本の人口が減るという予測がされています。

続いて、社会増ということで転入転出の状況でございます。

こちらにつきましては、東京一極集中ということでございます。

つい先週の報道にもありましたが、コロナ明けでこの東京一極一極集中というものが顕著になってきたという報道がありました。特に、18歳から22歳の若者では、転出超過数は1万6950人ということで、静岡県に次いで長野県は2番目に多いということで、若い人たちが東京ですとか都市圏に出ていってしまっているという実態があります。

あと、2050年の長野県の人口の変化ということでお願いしたいと思います。

当然ながら人口は減ってくるということですが、資料は将来の人口推計です。

200万人であったものが、159万人、2050年にはですね、2割減少してしまいますよという統計予測がされています。

また、高齢化率については41.6%ということで、10ポイントも約30年間のうちに上がってしまう。

それから生産年齢人口については、48.8%で8ポイントほど下がりますよという予測。世帯数が5261万世帯で、約300万世帯ほど減少します。

平均世帯人数については、2.21人だったのが1.92人となり、一人暮らしがどんどんと増えていくということが予測されているということでございます。

次に、現在の長野県の状況を見ていただきたいと思います。

出生数、婚姻件数ともに、減少傾向にあるということでございます。

また、転入・転出のグラフを見ますと、先ほどもお話したんですが、男女ともに18から22歳の世代の方々が進学就職期において、長野県にはいい就職先がないというようなことやいい進学先がないということもあるかと思いますが、転出してしまっているという実態がありますということでございます。

今度は、北信地域振興局の6市町村の人口の変化どうだろうかということを見てください。

青と赤の塗りつぶしてあるところが、2050年の予測値です。

赤い四角部分が、2020年の今の現況値です。

すり鉢状だったものが、極端に細くなっていくという状況が見て取れるかと思えます。

特に、75歳から79歳ぐらいまでは、2020年と変化はないですが、急激にそこから人口が減っていきってしまうという状況です。

40から45歳ぐらいでは、この階層は2020年から2050年に半減してしまい、以降は階層が若くなればなるほど、年齢階層の部分が現状よりも少なくなっていくということで、将来的にこの若い世代たちが、この北信管内を背負っていくときに、例えば40代になってどんなことになっているかというようなことが、想像できるかと思えます。

ここで見ていただきたいのが、北信管内の将来人口推計については、8万2000人だったものが5万1000人になりますということで、県の減り幅の倍以上38.6%も北信管内は減少が加速してしまうという予測がされております。

これを市町村別に見ていきますと、中野市さんで見ると、2020年対比で69.7%、約3割減りますよという状況です。

飯山市さんにつきましては、53.2%ということで、47%も減りますよという予測。

山ノ内さんも49.1%半減しますよという予測。

木島平村さんが60.8%4割減ります。

野沢温泉村さんが57.8%というところも約4割減ります。

衝撃だったのが、栄村さんでございます。38.2%ということで、6割の人口が減ってしまうということで、非常に衝撃的な予測が突きつけられているという状況でございます。

長野県内の農業というところで捉えてみると、どんな状況になっているかをご説明したいと思います。

担い手の状況でございます。農業従事者の状況につきましては、令和2年では5年前の平成27年から比べて、5年間で21%も減少しており、この5年で農業従事者が急激的に減ってきているという状況です。

この減少の加速度は、さらに先にいけばいくほど急激になっていくことが予測されています。

経営規模を見ますと、こちらグラフでは経営規模は平成27年対して令和年は10ポイントしか減っていないということで、先ほど人は21%でしたけれど、農地については10ポイントしか減

っていないという状況でございます。

これは、農業従事者が減った部分の農地を、担い手の方たちが預かって農地利用が進んでいるというような状況でございます。

次に、販売の部分から見ていただきたいと思います。

左のグラフは、経営体と販売金額の状況でございます。

3000万円以上の経営体は、10年間で1097経営体から1359経営体と増加し、約300経営体増加しています。

3000万円以上の販売金額はというと、所得で約1000万円という事で、長野県食と農業農村振興計画でも、このような経営体をトップリーダーという形で、1000万円以上の所得のある農家をできるだけ多く作っていきましょうということですのですすめていまして、こういう形で増えてきているという状況でございます。

そしてこの3000万円以上の売り上げのある経営体が、長野県全体の生産額のうち約半数を超える54%を占めているというような状況になっておりまして、こういった担い手の方が長野県農業をしっかりと支えていくという形が、今後ますます進んでいくんだらうなということが予測されます。

それから新規就農者の状況です。

右の表で見ていただきたいと思いますが、10年前に比べて新規就農者が増える一方で、親の家業を引き継ぐ親元就農は、長野県全体では少なくなってきていますが、赤字で書いてとあるとおり北信管内については逆になっています。

ぶどうは非常に収益率が高いということで、親父さんたちが儲かっているなら私らも子供たちも引き継いでいきたいということで、親元就農が増えてきているということが北信の特徴になっています。

隣の新規就農者の状況のグラフをご覧ください。

県全体では、200人前後で推移していますが、そのうち北信管内はかなりのウエイトを占めてございまして、200人を10の地域振興局がありますので、単純に割ると20人前後になりますが、北信については倍近い新規就農者を確保しているという状況で、就農希望する方にとってみると、北信の地域振興局というのは非常に魅力のある農業地帯だということが伺えます。

以上、この北信の管内の状況です。

次に、今日の議題でございます人口減少について、食と農業農村振興計画にかかわってきますので、農業と農村、食という三つの切り口に分けさせていただきました。

それぞれ、どんな影響があるかという一部の予想事例ということで、掲げさせてもらっております。

当然ながら、皆様からもこういった影響があるよと思われるところがあるかと思っておりますので、ご発言をいただければと思います。

まず、農業についてですが、先ほど言ったとおり高齢農業者を中心に、廃業などによってこれからどんどん農業従事者が減っていくだろうということが予想されています。

この理由として、2020年農林業センサスでは、本県の農業従事者のうち80歳以上が15%で、75歳以上でみると28%にもなるということで、5年経つと80歳、10年経つと85歳ということで、この年齢層が結構占めておりますので、当然ながらこれまでと同じように経営規模をやっていくことは難しいだろうなと思いますし、場合によっては廃業される方も数多くいるだろうということで、どんどんと従事者が減っていくことが予想されます。

続いて、人が減るということですので、やめた農家の方の使っていた農地がどうなっていくのかということですが、条件の良い農地については担い手の方々を中心に使われていくと思いますが、条件の悪い農地、山間部であったりとか不整形だったり、そういった農地については未利用となっていくって、耕作放棄地が増加するということが見込まれます。

また、人材不足ということで、人がいないということですので、雇用労働力が確保できないということが予想されますので、担い手の方がこれから規模を拡大して経営を大きくしたいけど、人がいなくてなかなか経営規模の拡大できないなというようなことも想定されるということです。

4点目。全国の消費地への安定供給に向けて形成された産地についても、JAさんが中心になってある程度の品目を取りまとめて、市場流通機能を使って供給する、そういった機能が低下していくということが心配されます。

特に、大規模農家さんがJAさんとかそういったところを通さずに、自ら販路を開拓しているというようなこともありますので、この産地機能の低下が予想されます。

あと、消費者、消費量ですが、減少に伴ってこれまでどおりの生産量で本当に大丈夫なのかということでもあります。

需要に見合った生産というものが必要になってきますので、そうなったときに、これまでどおり作っている国内市場とすれば、だぶつく。だぶついたものを例えばですね、輸出に向けて取り組むだとか、違った品目にもチャレンジしないといけないよねということで、産地としても変革が迫られるということが予想されます。

続いて農村です。

農村の方がもっと深刻的なのだろうなと思っております。

今までは、道普請、川普請などは、地域の住民が総出でやっていました。

地域コミュニティ活動は、人が少なくなってくることによって、1人1人に集中され、だんだんと負担が大きくなってコミュニティ活動そのものが低下、もしくはできなくなるという可能性があるということでございます。

あと、集落の祭りですとか伝統食など、地域で引き継がれてきた伝統文化というものも衰退が心配される。

また、風光明媚な原風景ですとか里山などが、人の手が入らないことによって荒廃化する。

そうなることによって、水源の涵養ですとか、洪水防止だとかという農村の持つ多面的機能そのものも低下するというので、これは都市部にも非常に大きな影響があるだろうなと思っています。

次に、食です。

品目によっては、品薄になるものが出てくる。産地が衰退することによって、これまでの生産量が確保できなくなり、消費者とすれば欲しいときに安定して買えない。買えたとしても、かなり高いものになってしまうということで、家計を圧迫するということが予想されるということで影響、予想ということで示させていただきました。

こういったことを切り口として掲げさせていただきましたが、少子化、人口減少社会における課題、農業、農村で想定される課題について、他にどのような影響があるのか、またこのような影響に対してどのような対策をしていくのがいいのかなど、ぜひ皆様からの忌憚のないご意見を賜ればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

【佐々木部会長】

ありがとうございました。

説明がありました、人口減少対策について意見を深めていきたいと思っております。

初めに、今の説明について何かご質問等はございますか。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。質問がなければ、意見交換をしていきたいと思っておりますのでお願いいたします。

資料の最後、今でいているスライドで、農業・農村・食という形で、三つの切り口で示されて

おりますので、それぞれ皆さんにこの関係のことで考えられる影響ですとか対応ですとか、いろいろありますけど、それぞれのお立場の中でご意見、ご提言をいただきたいと思います。

今回の意見交換につきましては、答えをだすということではございませんので、幅広く皆様からご意見をいただきたいということを聞いていますので、自由な発言でお願いをしたいと思えます。

初めに、農業ということをお願いをしたいと思えますけれども、こちらご指名をさせていただきますので、それぞれご発言をお願いしたいと思います。

農業者の立場ということで、農業経営者協会飯水支部長の岡村さんいかがでしょう。

自由に、自分が今思っていることで構いませんので、お願いいたします。

何か解決策を求めるとかということではないですから。はい。

【岡村委員】

農業経営者協会飯水支部長の岡村です。

よろしくお願ひいたします。

人口減少と違って、さっきのことで感じたことですがいいですか。

前段のことですけど、資料の「未来につなげ！」の下のきのこの生産量です。

北信管内では48%という数字が出ていますが、48%のきのこの生産者とすればだいぶ少なくなってきていますけど、これだけのお金が動いているわけですが、重点取り組みの中には「きのこ」という文字があまり出てこないというのがちょっと気になりました。

ここのところ、きのこ・菌茸は、だいぶ電気燃料など資材高騰しておりまして、だいぶ苦しい経営状態となっております。

若い人が、うちももう代表は息子に渡してありますが、大変苦勞しながら経営をやっております。

そんなこともありますので、何か取り組みがありましたら、ぜひともご紹介をしていただきたいと思ひます。

人口減少につきましてもまず結婚しないことが問題かなと思ひます。

1人である若い人たちが大勢いるような感じがします。

うちの息子も32歳で、まだ1人ですが仕事は頑張っています。

その上は結婚して子供もいますが、結婚しないというのが、自分の仕事に誇りがあるとかないとか一生懸命やっているということはいいんですが、どうも外に出ていく気力がなかったり出会が無かったり、市町村の結婚相談所とかへも行ってはいますが、出てくる・出ていけない人間というのやっぱりいる。

これは本人の気持ち次第だとは思ひますが、うまく言えませんが若い子たちがもっと外に繋がりができるような地域の連携などがあればいいかなと思ひます。

ちょっとまとまらず、すみません。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

これ、いいですね。言いつばなしじゃないですけども、ご意見をいただくということで。

前段に出ていた地域計画のところ、きのこに対するものがあまりないですが、といったところそれについては。

【池田係長】

はい、ありがとうございます農業振興係の池田です。

きのこの関係につきましては、確かに記述されている部分が少ないですけれども、企業的経営とい

うことで、そのときに合わせた政策といいますか対応策といようなことをやらせていただいております。

昨年度も、コスト削減ということで、県単事業で老朽化した照明施設のLED化ですとか、冷蔵庫の更新ですとか、電気代削減で太陽光パネルを設置するといった支援策を行ってきているところです。

【佐々木部会長】

よろしいですか。はい、どうぞ。

【岡村委員】

すみません。今、LEDの話が出ましたが、昨年その話を聞きましてうちも申請しようかなと思って動きましたが、申請期限が一月遅くてうちは対象にならなかった。連絡というか周知がうちに来るのが遅かったかなという感じがしまして、あと一月早ければ入れたかなという経験もしました。

【池田係長】

大変申し訳ありませんでした。

【佐々木部会長】

周知はそれぞれところからありますので、できるだけ早く周知をお願いしたいと思います。

それでは続きまして、農業者の立場からもうお1人、農業士協会下高井支部長の浅沼さんいかがでしょう。

【浅沼委員】

座りながら失礼します。農業士下高井支部の浅沼幸治と申します。

中野市で、ぶどうとりんごとシャクヤクを栽培しています。

人口減少につきましては、農業士仲間でも問題視されていまして、一番は川普請、道普請などや、かん水施設や用水とかを、今まで先輩方や60から65歳あたりの人たちが親方になって修理とをやっていたらいいんですが、これが自分たちの時代になったときに、資料にもありましたとおり経営規模がだいぶ大きくなりまして、他の方々も離農される方から畑を譲り受けて大規模にやっているということで、そうするとどうしても人手が足りなくなって自分の時間がない状態で、インフラ設備に自分が借り出されてしまうと仕事が追いつかないという状態になってしまふことが怖いと思います。

今後も果樹栽培をやってく上で、消毒の立ち上がりとか西部畑かんとか、私もまだ入ったばかりで勉強不足ですけど、そういったインフラがしっかりと最低限でも設備ある状態で、今後も残していただけるような政策をお願いしたいと思います。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

それでは続きまして、市場流通の立場からR&Cながの青果の塩崎中野支社長さん、いかがでしょうか。

【塩崎委員】

R&Cながの青果中野市支社の塩崎と申します。

今回初めて参加させていただきますのでよろしくをお願いします。

市場関係からの話ということで、私なりに少し考えることをお話させていただければなというふうに思います。

今回お題が人口減少ということで、非常に大きな問題でこれを解決できる策があれば、本当に政治家にでもなった方がいいのかなという大きな問題ですけども、ちょっとあの人口減少対策というのはそう簡単にできるものではないと思いますが、私は農業人口というのは増やせるのではないかなと、この農業人口というのは私なりの考えですけど、農業に携わる人の数はこれから増やすことはできるのではないかなというふうに考えています。

先ほど農業従事者について資料があったと思いますが、農業従事者が年々減っていますということで、私もちょっと勉強不足で申し訳ないですが、この農業従事者というのは専業農家を指しているのか、どういうところまでの人を指すのかちょっとわからないですが、それは特に問題ないですけど、例えば庭で家庭菜園をやる人、それから例えば1日だけでも農業に携わってみよう、半年だけでもやってみようというような、いろんな人たちが農業に関わる。そういう農業に関わる人たちを増やしていくということが、これからの農業人口を増やしていくことに繋がっていくんじゃないかなというふうに思っています。

今、多様化の時代ということで、昔は専業農家かどちらか働きに行って農業をやるっていうような農業の形態があったと思いますが、今はその農業に携わるいろんな形態があっというと思っています。

例えば今、仕事もリモートでできるような、そんな時代になっています。

東京にいる人たちが、例えば長野の田舎へ来て半日農業して半日リモートで仕事をするとか、そういうことが可能になっているような時代だと思います。

なので、そういうものも求めている人たちもいますので、そういう人たちを取り込んでいくということが、農業人口を増やしていくことに繋がるのかなというふうに考えています。

それともう1点、本当の若い人たちが農業に携わる場合というのは、やはりお金を取れないと農業をやりたいとは思わないと思います。いかに農業をやってお金を取ってもらうかということが大きなポイントになると思います。

今お話がありましたけど、非常に農業資材が上がり、電気代が上がっていて、農業をやっても儲からないよという話がありますが、ひと昔前の農業はとりあえず作って、作りやすいものを作って、あと農協は市場に出して高く売ってくれ。というのが大きな流れだったかと思いますが、今時代が非常に変わってきていると思います。

我々市場も、レンゴーさんと長印2つあったのが合併して、今の考え方も大きく変わってきています。

この資料の中にも、いくつかそういう言葉がありましたが、消費者ニーズに応えるというようなキーワードがあったと思いますが、やはり消費者が求めるものを作っていないと、これからの農業はお金が取れないと思います。

今、我々市場がやろうとしていることは、その消費者、末端の人たちがどういうものを欲しがっている、それを産地だとか農協・生産者と一緒になって作っていく、このスーパーがこういうものを欲しがっているから、この地区でこういうものを作ってくださいよ、それを繋げるのが我々の仕事だということで、今動きをしています。

ちょっと昔の市場的な考えから変わってきていますので、やはりそういう求められるものを地域一丸となって作っていくということが大事なかなというふうに思っています。

非常に天候も今暑くなったりして、元々できていた産地ができなくなっているというようなものもあります。

特に、田舎では、畑はあるけど作る人がいないということがありますが、中野から北というのは、基本的にもう少し涼しく、夏でも涼しかったり高冷地があったりして、逆にチャンスというか、農地は広くあるのでそれをうまく活用できて大規模農家ができれば、またちょっと違う視

点での動き方もできるかなというふうに思っていますので、いろいろみんなが連携しながらやっ
ていければ、まだまだ可能性はあるのかなと。

先ほど栄村が、もうどんどん人がいなくなっちゃうような話がありましたけど、田舎は田舎な
りの良さがあったりすると思います。

外人さんには、本当にあの自然だったり、山だったり、水だったりというのが、普通にある世
界が本当に最高だということで、そういうインバウンドも今増えていますので、そういうものも
利用しながら、何か一緒になってできることがあればいいのかなというふうに思っています。

何か話がまとまらなくて申し訳ありませんが、よろしくお願いします。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

続きまして、基幹産業として農業振興を推進する立場である行政ということで、中野市の牧野
補佐さんいかがでしょうか。

【牧野代理】

皆さんよろしくお願いいたします。

今日、課長の代理で来ています農業振興課牧野と申します。よろしくお願いいたします。

先ほどの人口減少のお話ですが、新規就農の方たちは確かに増えてはいますが、中野市全体と
しましては人口確かに減少しております。

人口減少の中野市のページにありました 2025 年の総人口 4 万 487 人ということで予想されて
いますが、ちょっとこの減少が早くて、6 月 1 日現在で中野市の人口 4 万 575 人ということで、
まだ半年ありますが近い数字になってきています。

農業に限らず中野市は、補助金の交付を受けまして先ほど岡村委員さんからお話がありました
ように、結婚前はマッチングアプリを利用してマッチングして、結婚から子育て世代もバッ
クアップできるようにということで、外から入ってきていただくということはもちろんのこと、
今いる方たちをいかに他の市町村に出て行っていただかないようにするかというところの政策も
とっている状態でございます。

もちろん新規就農に対しても、国県の補助金を利用してもらうのにプラスして中野市独自で支
援している状態ですが、なかなか減少は止まりませんし、先程の農業に関わる方の人口も増えて
いかないということで、課題はたくさんたくさんあると思われれます。

それに加えて、先ほど塩崎委員さんからありましたように、大規模な農業ということも大
切だということで、土地の集約化ですとか、スマート農業に対しても補助金を交付しているところ
でございます。

以上でございます。

【佐々木部会長】

はい、ありがとうございます。

結婚の問題、農業インフラの関係の話、儲かる農業をするための対応などの見が出されたとい
います。

私からも、JAという立場から一言発言をさせていただきたいと思います。

農協関係では、来年から 6 年間の長期計画を立てることになっていまして、今年が策定する年
になっています。

6 年間の長期計画のうち、前半の 3 年分については、具体的な計画を立てるという形になって
おりまして、それぞれ各課の管理職等と話を進めているところですが、先ほどからありますけれ
ど、人口減少、農業者の人口が減ってくるというのは、統計で出ている結果が明らかにガラッと

変わることはありませんので、これはもう必然的にそうなるだろうと思っていますが、そうは言っても農協という立場では、「JA中野市管内の農業生産額は維持していく、またはもっと増やしていく。こういった方向にしていくには、どんなことが必要なのか」ところを、いろいろな観点で考える取り組みを今やっております。

ただ、仕事ですので効率化も考えなければならない。例えば、協業という形で他の人と一緒に何か取り組むとか、そういったことも必要かなということの中で、JA中野市でも農協自体のスリム化も考えながら、近隣の農協と一緒に何かできることはないかということも考えています。

あと、先ほど話がありましたけれども、農地を守っていくとなりますと、担い手の方、今若手が入ってきておりますので、1軒ずつの耕作面積を増やしていくことしかないのかなと思いますけれど、それを進めていくためには、先ほどちょっと話しましたが、スマート農業、ロボティクスみたいなものの導入もそうですが、いいものを作るといふことと相反する部分もあるかもしれないですが、省力化栽培などの導入というものも今後必要になってくるだろうということで、うちの技術員が中心ですが、全国とまではいきませんが事例がありますので、試験場も含めて今年は県外へ出て事例を勉強したりしています。

直ぐに、来年、再来年からバチッと何か大きく変わるというわけではないかもしれませんが、そういった取り組みをしています。やはり中だけで見ていると中のことしかわからないので、外に出てですね、勉強してそれを農業者の皆さんにしっかりと伝えて、こういう事例があるので一緒に取り組みましょうとやっています。

今、新しく産業、農業を起こすには、産地パワーアップ事業も含めて、いろいろな補助事業などがありますので、そういったものにしっかり乗ることができるような形を作って、私どもはJA中野市ですので、JA中野市管内の農業を維持発展させたい。農業者が減ったとしても、しっかり増やしていきたい、また維持させていきたいということで、農協の立場として考えて来年からの長期計画の中に盛り込んでいきたいということで、今進めているところでございます。

よろしくをお願いします。

よろしいですかね。

はい。

それでは、次の切り口に移らせていただきます。

次は、農村についてお願いをしたいと思います。

コミュニティ活動の低下ですとか、伝統食の衰退などが予測されているということですが、農村生活マイスター協会下高井支部の西野さんから、他にもこのような影響があるとか、こういうことをやったらいいかな、というようなご提案をいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

【西野委員】

長野県農村生活マイスター協会下高井支部の支部長の西野です。

よろしくお願いたします。

人口減少対策でなくても大丈夫ということですので、昨日たまたまマイスター協会、白馬村の白馬ファームというところへ視察に行ってきました。

そこは、15ヘクタールの水稻を作っていて、苗も自分たちで作って、その苗を作ったハウスをそのまま苗床で終わらせずに、ナスを作ったりミニトマトを作ったり、また先ほど出ているスマート農業、ドローンを使った肥料散布だとか消毒もやっていて、それを息子さんが操作している。とにかくゲームが好きでよかったとおっしゃっていましたが、ドローンを使うには指先の技術が必要だということで、息子さんがその辺はもう一手にやっていて、すごく省力化できて助かっているというお話でした。

それともう一つは、薪を販売してらっしゃる方で、白馬村でしたのでスキー場のリフトとかい

ろいろ大きな器具の修理などをしていた大きな体育館みたいな倉庫が、もう廃業になって空いてしまったので買ってくれと言われて、そこを買って薪を山から切ってきて、1年間室内で薪を保存している。消毒などもして1年間、室内で乾燥させるので、とても良い薪ができる。

杉とかナラとかクヌギとか、それぞれ別に分けていて、白馬村なので、キャンプ場とかストーブとかそういうものに、すごく利用してもらっているということでした。

私が一番いいなと思ったのは、室内で薪の作業があるおかげで、雨が降った時、外へ出られないときは、そこで仕事ができる。冬も、そこは本当に大きな建物だったので、乗馬体験できる場所があって、白馬なので白い馬、昨日はちょっと見ることはできませんでしたが、乗馬体験場もあるので、雪が降って外に出たくないとか、観光に見えた方が乗馬体験したりとかしているということを知っていて、1年中何か上手に使う、活用するってすごくいいなと思いました。

先ほど、佐々木さんがいろいろな事例を見るということをおっしゃいましたが、私は白馬村の事例が、すごく良かったかなと思いました。刺激になりました。

それから、マイスターとしてなんですが、先ほどありました伝統食についても、今回8月の末に豊田地区のぼたんこしょうを使った伝統食などの講習を予定しています。ずっとつなげていければいいかなということで計画しているところです。

すみません。まとまりませんが、よろしくお願いします。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

続きまして、先ほど2050年の人口予測では、栄村さんが今よりも6割強減するという予測がありました。集落の存続等も含めて農業委員会女性協議会の油科北信支部長さんいかがでしょうか。

【油科委員】

はい、栄村で農業委員をしております油科です。

村の存続ということに関して言えば、私のいる集落は、もうほとんどお祭りをすることもできないです。

それから、新しく何かをしようとしても、もう人がいないという感じですし、水路普請をしようとしても、今はできてもこれからどうなるかわからない。将来に関しては、明るい希望が持てないような状況です。

特に農村ということに関係ないですが、実は最近、女性農業委員を対象とした講演会がありました。その時に聞いたお話が非常に面白くて、今の若い人の考え方はこうなのかということで、非常に興味深いものがありましたので、今回それ紹介させていただいてよろしいですか。

講師の方は30代の若い女性で、9年前に農業に就農されました。

その方、元々はアパレル業界で働いて、その後広告代理店のお仕事をされて、そして結婚して子供ができたときに、「仕事も辞めたくない。子供も育てたい。ではどうすればいいか」ということで、考えた結果、農業を選ばれました。

その時の理由が、「農業は、日中明るいうち仕事をすればいいだけで、夜暗くなればお仕事をしなくてもいい。とすれば子育てができるのではないか。」という理由で、条件に合ったので農業を選びましたとおっしゃっていました。

農村に住んでいますと、農業をするか、外に出て会社勤めをするか、とかちょっと悲壮な決断で農業なり他の仕事なりを選びますが、農業だと日中働いて日が暮れば子育てができると、農業をしようとして農業の世界に入って来られました。

そして、お仕事としては、ミニトマト栽培を始められましたが、就農1年目でパートの方1人雇って、売り上げが1,900万円ぐらいだったそうです。

1年目でそれぐらいの収入がありました。そのやり方というのは、もともと農村で農業をやっている方っていうのは、私も含めてですが、まず農業をするためには土から育てようと、まず良い土を作る、良い土を作った上で良い農作物を作り、そしてそれを販売する、農協等に委託して販売するという考え方になります。全く他の業種から入った若い女性は、そんなことをしている時間はないと、まず土地を買いました。

農地に特に適した土地というわけではなくて、その土地にホワイトシートというものを全面に張りまして、その上にトマトの工場、ハウスを建てました。

その場所で、完全に水耕栽培でトマト栽培を始めました。

つまり、水耕栽培ですから、豊富な水と燃料と、あとそれを作る技術さえあれば、就農1年目から売上1,900万円ぐらい取れるということです。

また、彼女はとても積極的な女性で、1,900万円の売り上げでは最初の投資を回収できない、このまま続けていくことができないと考えまして、最初の1年は仲卸、JAやそういった方に卸していましたがこれでは採算が合わない。

次の年には、そういう中間の方を経由していたんでは、自分の収入が足りないということで、かわいいパッケージを作って、デパートの三越に2年目にはもう売り込みに行ったというんですね。

三越に売りこみに行くときに、彼女の前歴が営業代理店ですから、三越の顧客層について、かつて自分が経験した知識を十分に生かして、三越といったデパートでトマトを買う購買者はどういう人であるかということをしっかり分析をするわけです。

そうするとそういう方は収入もあります。時間もあります。ですから買い物は毎日のように行くでしょう。高くても買ってくれるでしょう。というふうにしっかり分析をかけた上で、高いですが糖度が最高に良いものを選んで、数は1パック20個も入ってなくても買ってくださいという分析をして、売り込みをかけました。

その広告代理店の経験が非常に効きまして、2年目から恵比寿三越で取引を開始しました。

デパートのトップを走っている三越と取引ができたということで、他のデパートにも売り込みをかけて「三越で扱っていただいています」と言いますと、他のデパートさんも「ではうちでもお願いします」と。

それから、デパートだけではなくて、スーパーにも売り込みをかけました。その場合に、やはりトップの一番大きなスーパーに売り込みをかけまして、「三越さんで使っています。他のデパートでも扱って頂いています」というのを売りに、同じように売り込みをかけました。その時は、もう少し量も多めで、少し安い価格帯で、パッケージを作って売り出したということです。

それで一番のトップを走っているスーパーに売りますと、今度はそれ以外のスーパーにも「三越さんでも入れています。一番大きなスーパーにも入れています」と言いますと、他のスーパーさんも「うちにも入れてください」ということで、どんどん取引が出てきたということでした。

それから、売り込みの仕方も、最高に糖度の高いしかも値段の高いところでまず取引を開始して、そこでは儲けは出さなくていいとはっきり割り切って、スーパーなど大量にはけるとところで儲けを取ると、はっきりと割り切ってそういう売り込みをして、現在就農9年目で売上が1億4,000万円、従業員数が34名ぐらいだったと思いましたが、それでしっかり経営が成り立っている。

それから、「従業員の方がいない、いない」と皆さん人手不足だと言いますが、1日働いてもらおうと思って人を募集すれば人はいないけれども、3時間4時でいいということで募集をかければ、それぐらいの時間だったら働いていいという人は結構見つかるし、良い人材も集まっているということで、まだ30代の若い女性ですが、1億数4,000万円の今売り上げを達成して、来年度は1億5,000万円ぐらいになるかなということ、やっていらっやいました。

その話を聞いたときに、私達は今まで通りの農協ということで農業を考えてしまうけれども、逆にそういうしがらみがないことによって新しい農業の仕方があるということ、水耕栽培によるトマトの栽培であれば、そんなに面積もいりませんし土も使いませんので、汚染された土地の上でも大丈夫ということですよ。

普通なら農業が適さないようなところでも、シートを張った上で栽培するだけですので、それで大丈夫というようなことで、その話を聞いたときは本当に目から鱗がポロポロと結構落ちまして、若い人の考え方っていうのは悲壮感を持ってではなくて、自分の人生とこれからのことを考えて、しっかり分析して目標を決めて、一步一步進んでいけば、農業は儲からない、儲からないと言うけれども、それなりに儲かるやり方があると、何か力づけられるような思いがいたしました。

こういうことが、やはりこれからの農業を考えると、駄目だ、駄目だと言わずに、見方を変えてやり方を変えて、若い人の意見をどんどん入れることによって、何か新しい展望が見えるのではないかなと思いましたので、私自身の意見というより講演会が非常に面白かったものから、皆さんに紹介させていただきました。

ありがとうございました。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

続きまして、限界集落の課題や地域の活性化などの観点から、行政の立場で飯山市の春日課長さん、いかがでしょうか。

【春日委員】

はい、飯山市農林課の春日です。よろしくお願ひします。

普段、農家の皆さんとお話する中で、皆さん異口同音に用水路の管理をする人がいなくて困っていると言います。

飯山市を含めて、中山間地を抱えているところは、川から水を引いてきていますが、その水路を1キロメートル、2キロメートル、それ以上と、草刈りをして管理している。ごみが詰まったり毎日見に行く。今は、70代ぐらいの方が担っていただいている一生懸命やってもらっている。今の方がお元気なうちはいいですが、これから5年10年したら次の世代はやっていけるのか、と非常に心配しています。

そんな中、先ほど北信地域は、新規就農者が他の地域に比べて多いという話もありましたが、当然ですけど農家は儲かれば当然新規就農者が入ってきます。

飯山市につきましても、野菜も水稲も、ある程度大規模で自分で販路を持っている農家さんについては、県外から新しくやりたいということで弟子入りしたり息子さんが継いだりしていますので、こういった事例を見ると何かしら儲かることを考えていかないと若い人は来ないかなと感じています。

また、他の市町村さんもそうですが、市外県外から移住者の方をと色々移住政策をしていますが、豪雪地、雪が多いからということで、かなり山の中でも山間地の山手の方に来られる方も数多くおられます。

その方につきましても、家を買ったらそこに農地がついてきた、というところもありますが、移住者に家の周りの畑や田んぼを管理してもらおうと、大規模経営者でなく家族経営規模だとしても、農村のコミュニティ、地域のコミュニティを守っていくということについては、非常に大きな役割を果たしているのかなと考えております。

そういう方たちは、50代60代でも村の中に入れば、非常に若い方たちでありますので、そういう人たちはやはり大きな役割を果たしているなと感じています。

それから、伝統食の関係では、当市におきましても伝統食、食文化の関係団体の方いらっしゃいますが、若い方がなかなか入ってこないという話を皆さんから聞きます。

若い方につきましては、先ほど油科さんからの話もそうですが、比較的自由的な感覚でいろんな活動されていますので、「ここで会議やるので来てください」というよりも、SNSで繋がっているのだから「この日に駅前マルシェやるから集まらないか」といった形で若いお母さん方はお店を出すということで、食べ物に限らず、小物や古着、リラクゼーションとかを混ぜこぜでイベントをやっている方も多いため、そういう方と食文化を残そうと動いている方とをくっつけるようなことも行政としてできないかなと考えているところです。

まとめませんが以上です。

【佐々木部会長】

ありがとうございました。

農村について、皆さんから、一年中仕事があるような体制も従来のやり方を変えれば、いろんな取り組み方ができるのではないかと、SNSの活用の検討、といったご意見がありましたので、またまとめていただければと思います。

続きまして、次の切り口ということで、食についてお願いしたいと思います。

本日、消費者の立場としてご参加いただいております、信州湯田中渋温泉郷女将の会ゆのか会長の西山さんからお願いしたいと思います。

【西山委員】

はじめまして、「信州湯田中渋温泉郷女将の会ゆのか」から参りました西山真由美と申します。よろしくお願いいたします。

女将の会というのは、湯田中渋温泉で旅館を営んでいる女将や若女将が集まって作った有志の会です。私の前任の方もこの会議に参加していたかと思っております。

旅館をやっておりますので、農業とは違う立場ですけれども、旅館では1泊2食付きというのが基本の体制となっておりますので「食」というのはかなり大きなテーマ、扱う題材となっております。

私自身が長野県の出身ではなくて、東京の方から結婚して嫁いできて旅館をやることになったのですが、それまで農業はあまり触れたことがなかったですし、さらに旅館とか商業にもほとんど触れたことがなく育ってききましたので、かなりカルチャーショックばかりの日々でした。

山ノ内町に来て、果物が美味しいということにもものすごくびっくりしまして、それまでスーパーで売っているものしか見たことがなく、身近な人が農業をやっているという環境も周りになかったため、就農人口減っているということに対しては、まだ農業者たくさんいると今でも思っております。

旅館の従業員さんの中でも自分の家でお米や野菜を作っている、パートさんも農閑期に働きに来てくれるという方もたくさんいますので、農業と観光というのは繋がっていると感じております。

あとは、北信地区の食べ物、お野菜もすごく美味しいですし、そういうもののポテンシャルというのはものすごく感じております。

農家の人は本当にすごいなって思うのと、ものすごく美味しいものが当たり前で流通している、市場価格も安い、そういうことは強く申し上げたいと思います。

また、旅館の取り組みとしては、うちでも生産者さん直通のものを扱っております、金具屋という旅館をやっておりますけれども、山ノ内町内のりんご農家さんが作った自家製のジュースを仕入れて販売をしていると、やっぱり美味しいのですごく沢山売れます。

それから、これは渋温泉の旅館さんどこでも取り入れていますが、中野市の福田屋さんの信州牛は美味しいので、それをメインにして「信州牛があります」とホームページに出して販売をすると、それが食べたくて予約をしてくるという方もかなりいらっしゃいます。

ドライフルーツも果物が美味しいので、フルーツも1軒の生産者さんが作ったドライフルーツを特別に取り寄せてお食事につけたりすると「これはどこで買えるんですか」と聞かれることもあります。

他の生産者さんからもお話をいただくこともありますので、うちも小規模なのでそんなにたくさん扱いきれるわけではないですが、できる限りのことをして、お互いに高め合っていけるような関係をこれからも作っていきたいと考えています。

長くなりますが、山ノ内町では人口減少ということで子供が減ったということは、ものすごく肌感覚で実感しております、旅館がある東地区の小学校の人数も10年前と比べて半分に減ってきているので、少子化対策は本当に喫緊の課題で、どうしてこんなに減ったのだろうか、なんでこうなってしまったのだろという分析をしていただくのが、最初のところで一番大事なのかなと、皆さんの話を聞いて感じます。

まとめませんが、以上です。ありがとうございました。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

食については、地元の食材を活用していただいているということで、大変ありがたいと思っております。

昔から地産地消という言葉もありますし、今、JA全農では「国消国産」と、自分で食べるものは自分の産地で作りましょうと掲げていますし、5月に改正しました食料農業農村基本法にも、食の安全保障の確保、安定供給と記載されています。

フードマイレージという観点からも、昔は海外から輸入されたものというのは結構安価でお店で売られましたけれど、今は逆に海外から来たものの方が高いというような、逆転現象も起きていくくらいですので、やはり国内で食料を生産しなければならないと思います。

そして、今後も農業者の方がどんどん若手が増えてくるように、コストに見合った形の中でその食料が提供でき、儲かる農業をするためにはどうするんだということも含めて、地元で使っただけ輸送コストをかけないところで消費するというのも一つの手だと思いますので、そういった取り組みがさらに広がっていけばというように思っております。

最後に、皆さんからそれぞれご意見ご提案をいただきましたが、ご意見をお伺いした中で何か他に皆さんから気づいた点などありますか。

いかがでしょうか。

どうぞ油科さん。

【油科委員】

すみません。時間があまりないところ申し訳ないです。

実は私、最近人口減少について、ふと思いついたことがあります、これさえやっていただければ人口が増えるのではないかと。

ちょっと風呂敷が大きいのですが、男性の方が家事力をもっとつけていただければ、子供は絶対増えると思います。

昔でしたら、女性は家庭の中にいて家の中のことをする、ご主人は外に行って働くというパターンで暮らしてきましたが、今は共働きをしないと子供の教育費や家賃等、昔と違っていろいろなお金がかかりますので、共働きが普通になっています。

その中で、家事を女性だけがやっているというパターンが今非常に多いと思います。

もちろん、今の若い方には協力的に家事をやってくださっている方もいますけれども、やはり自分の親世代を見ていて、男は外に働きに出てお金を稼いでくる、奥さんは若干お給料を補填するぐらい働いてくれて、あとは家の中のことや子育てをしてくれればいいというように考えている方が多いと思います。

共働きの家庭で、男性が女性と同じだけの家事力をつけていただき、掃除、洗濯、料理、買い物といった力をしっかりつけていただければ、例えば奥様の妊娠中で体調が悪くても、ご主人が朝も夜もちゃんと食事を作ってあげるよ。家の中の掃除もほどほどにしてあげるよ。洗濯もしてくれる。つまり女性が今普通にやっていることを、しっかりフォローしてくれて一緒に子育てもやってくれる、そんな家庭を作ることができたら、お子さんを産む方は子供が好きで産んでいるわけですから、ご主人が協力的で、もし自分の体調が悪くなったりできなくなったりしても、男性が、ご主人がしっかりフォローしてくれる。何の心配もなく1週間でも休養も取れるし、入院しても大丈夫だし、子育ての送り迎えもしてくれるっていうようなになれば、子供をあと1人、2人増やしてもいいかなと思うことは自然な考え方だと思うので、ぜひ男の方にも家事力をつけていただければ、人口減少問題はかなり解決するのではないかと思います。

ぜひ今いらっしゃる男性の方にお願ひしたいのですが、3日間か4日間で結構です。奥様がいなくても家で家事やってみてください。どんなに大変かわかったら、家事をした上に子供をさらに1人2人増やすことが、どんなに大変かということがわかると思います。

それがわかったら、奥様にも優しい言葉をかけたり、協力したりできると思いますので、そうすればまたお子さんも増えるといったことがあるのではないかとふと思いましたので、この場で発言させていただきました。ありがとうございます。

【佐々木部会長】

ありがとうございます。

個人的には頭の痛い、わかっているけれどもなかなか実際に行動に移せないようなところもあります。

ありがとうございました。

他にいかがでしょうか？

よろしいでしょうか。

よろしいようです。

それぞれから、全体を通じて、いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございます。

まとめというわけではありませんが、地域振興局の小池局長さんから、人口減少対策に対して、ご意見をいただきたいと思います。唐突で申し訳ありませんが、よろしく願ひします。

【小池局長】

座ったままですみません。せっかくご意見いただいたので、少しお聞きしたいことがあるのでよろしいでしょうか。農家さんも今日いらっしゃるの、農業の現場でどう受け止められたかなってところをちょっとお聞きしたいと思います。

一つは、稼げる農業が、まず必要ですよね。若い人が入るためにも。稼げる農業って何なのかっていう観点で、塩崎さんからも油科さんからも、西山さんからも消費者目線で消費者が何を求めているかっということが農業の現場でも必要ですよっていうお話が結構ありました。

ごもつともだなど。いいものを作ることを前提で、それをどう売るかとか、どう伝えるかというところが大切なんだろうなと思ったんですが、今日おいでの岡村さんや浅沼さんや西野さんや油科さん、農業を実際にやっていたら、消費者の皆さんが求めているものを受け止めてこうやっていますよとか、やろうと思うけど難しいよっということなど、ご意見あればお聞かせいただけたらありがたいです。

【佐々木部会長】

はい、岡村さんいかがですか。

【岡村委員】

うちはきのこ、ブナシメジですが、全量、瓶口カットで、バラでコンテナへ袋に入れて、パッケージ専門のところに出荷しています。

なので、パッケージセンターが、今の消費は、どこで何が欲しいか、粒の大きさや丈の長さとか、これくらいのが欲しいというのを、うちから持っていったきのこを施設で分けて販売しているので、うちが、農家そのものはあまり考えていないわけですけど、パッケージセンターがしっかりそれをやってくれているので、要求されるものをうちは提供している状況です。

あまりまとまっていないですけど。

【小池局長】

全員の農家さんが考える必要はなくて、塩崎さんみたいな流通の方が考えたり、パッケージセンターでそこをキャッチしてやっていたりというのは、それで十分いいと思うので、ありがとうございます。

【佐々木部会長】

浅沼さんいかがですか。

【浅沼委員】

ぶどうの話になってしまいますが、僕、JA中野市で産地生産基盤パワーアップ事業に取り組んだところから、親父から経営移譲して始めましたが、パワーアップ事業が始まって、ぶどう棚ができて農家さんたちが儲かってきて若い人が増えました。新規就農者激励会や農業士の会合、ポプリ（農業青年クラブ）の会合など、かなり多い割合で竹原地区とか平岡地区などから、親元就農でぶどうを始めたので来ましたとか、Iターンで来ましたとか、若い人たちが増えています。

就農した人たちが、3年後、4年後に技術をつけ始めて、自分たちで物売るようになってきて話す内容は、儲けることも大事ですけど、いかに質の高いぶどうをお客さんに届けるかということを中心に話をしています。

東京とかマルシェとかで売りに行くと、長野県の食材って、とても人気あって人だかりできるぐらい長野県の食材を都内の人たちは求めているだっということをよく感じます。

長野県の普及員の方とか、JA中野市の技術員の方々が蓄積された技術を、農家さんたちが使って、質の高い日本の中でも質の高い食材を作れるこの環境っていうのは、とても大事だと僕は思っています。

マーケットの方々から、どういうものが欲しいのかという情報を生産者側にもらうと、よく言われていることですが、竹原地区の人たちは、マーケットからこういうものを作ってくれて言われると必ずそういうものを作れると、それだけの技術力がある人たち、農業者が北信の管内、すみません果樹だけの話になって申し訳ないですがいらっしゃるので、この技術の継承やいかに若い人たちが農業をやりやすい境課をつくっていただけるか、ということも考えていただけるとありがたいです。

今まで先輩方がやってきたインフラ整備とか助かっている部分があって、うちの地区では、かん水施設とかしょっちゅうパンクしていて、管理の長になった人は1週間のうちに2回とか直しに行行って半日潰れるというような状況で、これを自分たちの時代で行っていくことはちょっと無理だなと思っています。

やっぱり質の高いものを作ることはそれだけ難しいので、技術がある北信管内なので、そこを続けられるような形が必要で、どういうものが欲しいというマーケットさんの情報をいただければ、要望にあったものを作る技術を普及員の方なりJAの技術員の方は持っている方々もいらっしやるので、要望に応えていくことによって北信の信頼になっていくのかなと思います。

【小池局長】

ありがとうございます。

消費者のニーズに合わせるための技術がもう蓄積されているので、今のものがこんなに高く評価されているというところですかね。おっしゃる通り、よくわかりました。ありがとうございます。

もう一つだけいいですかね、先ほどから人手不足の関係で、フルタイム、これは塩崎さんと油科さんからありましたけれど、短時間なら働けるという人を雇っていくことも必要で、そうすれば人手不足の対策にもなる、もう一つ道筋になるのではないかというご提言をいただきましたけれど、実際現場では、人手不足感がなければ結構ですが、何か短時間勤務の人を入れるとなると何か支障はあるのでしょうか。実際はいかがですか。農協の関係でも結構ですし、農家さん、生産者の方でも結構ですが。

【佐々木部会長】

岡村さん。

【岡村委員】

いろいろな会合で仲間と集まるときには、人がいなくてっていう話はよく出ます。

今言われた短時間の雇用をという頭の切り替えとか、どこに募集を出せばそういう人たちが集まってくるのかという情報も、各農家にうまく周知できればいいのかなと思うし、援農隊というようなことやいろいろなこともやってもらっていると思います。

うちの場合で言えば、今来ていただいている方は3名ほどですが、基本は1人で、あとは大体半日で、4時間ぐらいの方がいて、後は週に一、二度の方という雇用です。スポットで見つけて困ったときにお手伝いしているという体制をとっていますが、そうは言っても短時間働く人を見つけるということは難しいところもあるのかなと思います。

【佐々木部会長】

浅沼さんどうですかね、路地のぶどうでは、6月の作業で短期のお手伝いといいでしょうか、人材確保特に苦労している。

【浅沼委員】

そうですね、農協さんから産業公社さんに繋いでもらって、1日、2日来てもらいますがやっぱり足りなくて、今年から介護をしている方2名と子育てされている方1名の3名の方に来ていただいて、毎日4時間ぐらいずつ短期の方に来ていただいていますけど、先ほど言われた通りやっぱり仕事ができない方もいらっしやあって、一度言ったことを二、三日はかかる。誰でも時間はかかりますけど、覚えたら言った以上にやっていただけるような方来ていただいているので、たまたまうちは運が良かったと思います。

ぶどう栽培の仲間に聞くと、海外の方を入れたりとか、何十人と雇っていたりとかしている方もいらっしやいますが、人材はどうしても足りないと聞きます。

よろしく願います。

【小池局長】

ありがとうございました。

最後にまとめて事務局というか農業農村支援センターから話がありますが、人口減少の話ということで伺いましたが、本来の農業政策そのものなのかなと思ってお聞きしていました。

ありがとうございました。

それから、油科さんに最後にいただいた、男性の家事力というのはまさにおっしゃる通りで、自分自身の体験からすると、たまたま妻が1週間ぐらい入院したときに、子どもが高校生と中学生ですが、1週間家事をやってみました。弁当を作って送ったりしました。

それ以外でも自分でもかなり意識して、やっている、やっているって言うと嫌がられるんですけど、かなり意識して洗濯、掃除は、ほぼ分担してやるようにしていますので、ちょっと少子化対策には遅い年代年齢でしたけど、その姿を子供に見せるっていうのも大切なかなと思っています。

施策として、行政の施策で今はみんな子育てやれというのも、どこかで家事をしっかりと分担する社会っていうのも必要かと思えますけど、今日いる職員も多分心してやってみると思えますので、どうもありがとうございました。

【高橋所長】

農業農村支援センターの所長の高橋です。今日は、ありがとうございました。

いろいろと貴重なご提言を頂戴しました。ありがとうございました。

農業の部分でいろいろと話が出てきました。スマート農業、人が減ってきたときに、今まで人力でやっていたものを機械なりそういったデジタル化技術を使って行って、これまで通りの作業をしていこうというお話がございました。

その際にはですね、今国の方でもいろいろと検討はしていますが、やはり今の栽培形態のままスマート農業をやるとか、デジタル技術を導入するということは、なかなか難しいというようなことも言われていて、スマート農業技術を利用するために栽培形態だとかいろんなものを自分で変えていかないと、上手にそういった技術を利用できないということも、一方では話がありますので、まだまだスマート農業技術については発展途上だと思っておりますので、我々からもしっかりと情報提供させてもらいます。スマート農業技術は、それ自体で課題を解決できるものではないですので、技術を上手に使いこなすことが非常に重要だということで、国でも言っておりますが、ぜひぜひそんな形でお願いしたいなと思っております。

それともう一点、先ほどR&C塩崎委員さんからありました、農業従事者が減っているという部分については、50万円以上の販売農家と販売農家に雇用されている方々ということで、いわゆる産業としての農業の従事者がこういった形で減っていますという数字でございます。

確かに、先ほどお話あったとおり、定年帰農者ですとか移住就農という方も多くなってきていますが、自分のライフプランに合わせて、自給自足だったり身の丈に合った栽培だったりというようなことを選択して、農村部に來る方もおいでになります。

そんな形で、国でも農地については、昔は30アールよりも多く農地を確保しないと農業収入がなかった、就農できなかったというようなことがありましたが、そういった下限面積が撤廃されまして、たとえ1アールでも1平米でも農地を所有できるようになりましたものですから、そういった形で規制緩和がどんどん進んでいっています。

そんな方々を上手に取り込んで行って、農村の中にその地域コミュニティの関わりを持って行ってもらう、共に活動してもらうという方法もあると思えますし、一方で、危惧されていることは、定年帰農者ですとかそういった方々が、要は自分の余生みたいな形で過ごしている方々が、今度は田舎では暮らしにくくなったということで、逆に都会へ出ていった場合に、そこが空き不動産、空き農地となって、これがどんどんと虫食い状態で所有者不明の農地や住宅になるのではな

きという不安材料にもなっているということでもあります。

こちらからはしっかりと、国でも法整備をしっかりと整えていただいて、そうならないように農村が荒廃化しないような形を、こちらからもしっかりと要望していかなければいけないと思っています。

食の部分については、おっしゃるとおりで、やはり一番の根底はやはり美味しいものを提供するというところだろうなと思っていて、そこにいろいろな物語があって付加価値がつくということだと思っています。

例えば、無農薬だとか無化学肥料で作るとということなど、でも一番はやはりその消費者にとって美味しいものであること、その一番の根底のニーズというのは絶対揺るがないものだろうなと思っていますので、そこに作り方などいろんな物語が加わって行って、価値が高まっていくということだと思っていますので、その点、北信ではこれまでお話があったように、美味しいものを作る産地だと思っていますので、これからは皆さんからご意見を頂戴しながら引き続きやっていきたいと思っています。

それと先ほどですね、冒頭にお話あったきのこの関係でございます。

県内には、10の広域の地域振興局がありますが、農業生産額が3番目に大きい地域です。佐久が一番で県全体の21%を占めています。高原野菜などが多いということで非常に大きい。

続いて長野が17%、北信も17%、端数の関係で北信が3番目になりますが、6市町村だけでこれだけの生産額を稼いでいるということですので、非常に農業の盛んな地域だと思っています。

この北信の生産額の中で、きのこがウエイトを非常に多く占めていますので、北信地域の計画にはしっかりと、来年度については支援策ですとかそういったものはしっかりと盛り込んでいきたいと考えております。

また、先ほど残念ながら補助事業などの情報が届かなくて間に合わなかったという話がありました。それは本当に反省すべき点だと思っていますので、農業関係について国なり県なりで制度設計されたものは、農業者のための制度でございますので、末端までしっかりと情報が行っていないというのは、やはり反省すべき点とっておりますので、そういったことがないように、これからしっかりとやっていきたいと思っていますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思っています。

以上です。

【佐々木部会長】

ありがとうございました。

全体を通じて何か皆さんからございますか。

よろしいですかね。

前段で申し上げましたけれども、本日はそれぞれ皆さんからご意見をいただくということでございますので、お願いします。

事務局におかれましては、本日いただきました意見、提言を、しっかりと県へ繋げていただいて、政策の参考にしていただきたいとお願いを申し上げます。

それでは、本日の議事については以上とさせていただきます、終了させていただきます。

皆様方には、熱心にご審議いただきまして、誠にありがとうございました。

進行を事務局に返しますので、よろしくお願ひいたします。

【徳永課長】

はい、それでは事務局に戻させていただきますけれども、佐々木部会長さんにおかれましては円滑な議事進行をいただき、誠にありがとうございました。

また、皆様には、ご熱心にご審議いただき誠にありがとうございました。

本日いただきました、ご意見ご提言につきましては、この北信地域に限定される内容と県全体

で共有していく内容とに事務局で整理をさせていただきたいと思います。

県全体で共有していく内容につきましては、北信地区の部会からの意見、提案ということで、長野県食と農業農村振興協議審議会の本会に提出をさせていただきたいと思っております。

最後に、次第の5その他であります。事務局からは特に予定をしておりますが、ご参席の皆様から何かありましたらお願いします。

無いようですので、これをもちまして予定した内容は全て終了いたしました。

以上をもちまして、本日の長野県食と農業農村振興協議会の北信地区部会を閉会いたしたいと思っております。

本日は、ありがとうございました。

以上